暮らしとエネルギーの関係を通じて環境問題への関心を育てるのが目的

NPO法人こども環境活動支援協会
（LEAF Learning and Ecological Activities Foundation for Children）
（西宮市）

企業からやってきたプロがエネルギーについて出張授業をする

「NPO法人こども環境活動支援協会（通称「LEAF」）」は、青少年をはじめとする幅広い年代の人々が、市民・事業者・行政のパートナーシップの下、地球環境に配慮した暮らしや活動ができる地球市民として、人類共通の目標である持続可能な社会づくりに参画することを願い、一九九八年に設立された。その目的として、環境教育・環境学習や自然体験などに関する諸事業を行うことを通じ、子ども達の自主的な環境活動を支援することを掲げている。

主な事業としては、「地域に根ざした持続可能な社会に向けた教育の調査研究事業」、「自然体験活動を推進するための支援事業」、「企業会員と連携した環境教育事業」などがある。

「企業会員と連携した環境教育事業」では、衣・食・住・エネルギー・ビン・エコ文具の六つをテーマに、小・中学校・高校の総合学習時間を利用し、出張授業を行っている。「全てのテーマで、製造・流通・販売・消費・再利用までの過程を紹介することで、産業において資源が循環す

この教室では、うちわを自分たちであおいで風を起こし、風力発電で電気を起こす体験を通じて「自然エネルギー」について学ぶ。普段は意識しないで使っている電気だが、大量に作るためには、大変な力が必要であることが実感できる

ることの大切さを伝え、消費者としての子どもたちの立場を理解してもらうようにしています。エネルギーの場合は、自然・都市ガス・電気というエネルギーの種類やそのしくみを紹介することを通じた学習を行っています」と事務局次長の長手聖美さんは説明する。

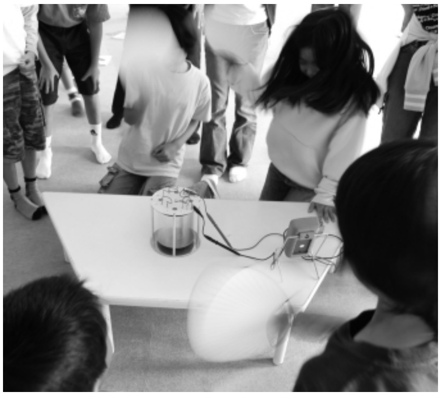
エネルギーに関する出張授業は年に三〜五回行っており、「くらしとエネルギー」について西宮市内の各学校に対して学習の内容と意図を伝え、賛同を得て実施している。

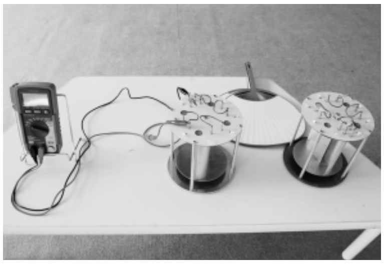
「授業の先生は、大阪ガス・関西電力といった、エネルギーに関係する企業・団体の方々に協力してやってもらっています」と担当者の北村こころさんは説明する。今回の授業では、映像や実験道具などを使った「エネルギーとは何か」やエネルギーの輸送、省エネルギーの取り組みといった内容を、三日間かけて総合的に学んでもらうプログラムになっている。

環境と私たちの暮らしのつながりを考える上で欠かすことができない「エネルギー」。"生活の場"の一つである学校で"人の暮らしの中で使われるエネルギーと環境のつながり"について学ぶことで、子どもたちの環境問題への関心を育てることができると、どこの学校でも好評だという。

（文責・CEL編集室）

「電気エネルギー」の部屋では、まず電気が家や街のどこで使われているかを考える


各班に分かれて、どの班が一番、うちわで電気を起こせるか競うので、自然に力が入る


身体を使って電気を発生させるための機械

実際に見て触れる授業に生徒たちも大喜び

NPO法人こども環境活動支援協会

【連絡先】
〒662-0832 兵庫県西宮市甲風園1丁目8−1　ゆとり生活館アミ1F
TEL+FAX　0798-69-1185
E-mail:kodomo@leaf.or.jp　URL:http://leaf.or.jp/

最後に、授業を担当した各担当者にお礼を述べる子どもたち

子どもたちからは、「都市ガスが海外から運ばれてきているとは、全然思わなかった」という発言も飛び出した

生徒も参加して実験を行う